



発行日 平成 28 年 1 月 30 日  
 発行 佐世保徳育推進会議（佐世保市教育会内）  
 住所 栄町 4 番 1 1 号サンクル 1 番館 2 F  
 TEL/FAX (0956) 23-2856  
 E-mail sasebotokuiku@alpha.ocn.ne.jp

# 徳育



## 「人よく道を弘む」

佐世保徳育推進会議会長 木村 勝彦

佐世保市の皆様には健やかに過ごしのことと拝察いたします。  
 「徳育通信」第3号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

佐世保徳育推進会議の活動も、市民の皆様のご理解とご協力により、佐世保市独自の市民運動として定着してまいりました。本会議が推進してきた「一徳運動」が家庭、地域社会、学校、職場に浸透しつつあり、知名度を高めると同時に、挨拶や思いやりの表現という形で実践されていることは、誠に喜びにたえません。

しかし、徳育の重要性が認識され、広く主張される一方で、道徳や徳育は所詮他人事であり、やりたい者にやらせておけばよいという風潮、あるいは無関心さも見られるように思います。大事なものではあろうけれども、今の自分にはそれどころではないと、先送りして済ませてしまう人も多いのではないのでしょうか。それは何も日本の現代社会だけのことでなく、孔子の生きた春秋時代、すなわち紀元前6世紀の古代中国でも同様だったようで、『論語』には孔子の次のような言葉が出てきます。

「誰かよく出ずるに戸によらざらん。何ぞこの道によることなきや」。つまり、誰でも家を出るときには戸口を通して行くだらうに、どうして社会に出るのに道徳の道を通して行こうとしないのだろうか、と孔子は嘆いているのです。道徳とは、人が社会に出て行くための戸口であり、道にほかなりません。そうであるならば、私たちは自分や自分の子どもたちが歩くその徳という道をつねに整備し、美しくしておかなければならないのではないのでしょうか。そういう意味でも、徳育は決して子どもだけの問題ではなく、子どもに道を踏むことを教えるべき大人の主体的な問題であると思われまます。

孔子は、また、「人よく道を弘む。道、人を弘むるにあらず」とも述べています。私たち一人ひとりが徳を身につければ、社会に徳が広がって、善くなっていく。誰かが徳を身につけて広め、社会を善くしてくれるのを待ってはいけません。他人任せではなく、自分でやるのだと言うのです。佐世保における徳育推進の運動は、まさに2600年前の孔子の言葉に応えようとする努力なのではないのでしょうか。日本中の他のどの都市でもなく、この佐世保のまちから「人よく道を弘む」という運動が推進されていることを、佐世保市民は誇りとして良いように思われまます。徳育推進活動がこの美しい佐世保を、さらに豊かで美しいまちにすることを祈念してご挨拶に代えさせていただきます。